

レポート 278

忍耐の先に待つものは きっと明るい



岩間涼星さん

磐城高校野球部3年。第92回選抜高校野球大会の代わりに開催された2020年甲子園高校野球交流試合では主将兼捕手としてチームを支えた。

Q 磐城高校野球部の活動内容を教えてください。

僕たちの学校は文武両道、どちらにも全力で取り組むという校風のため、少ない時間で質の高い練習をこなすことが重要です。そのため、勉強と両立できるよう、練習内容はさまざまな工夫を凝らしながら自分たちで組み立てています。

また、地域との交流を深めたいという思いから、近くの小学校内の放課後児童クラブの子どもたちとスポーツを通して触れ合うほか、令和元年東日本台風では災害廃棄物の搬出を行うなどボランティア活動にも取り組みました。

Q 選抜に選ばれた時の気持ちを教えてください。

甲子園は小さい頃からの夢だった

ので純粋に嬉しかったです。また、災害や新型コロナウイルスなど、世の中が大変な状況の中でも、自分たちのプレーを多くの人に見てもらい、いわき市から福島県、そして全国の方に感動と元気を少しでも届けたいという気持ちでいっぱいでした。

Q 交流試合を終えた今、どんな思いがありますか。

交流試合では、全員必死にプレーしました。僕たちのチームはスーパースターがいたわけではありません。一人一人が技術を磨き上げ、ユニフォームを真っ黒にして泥臭く戦う磐城野球部伝統のチームカラーとプレーハードの姿勢で、一球一球がむしやりに食らいついていく自分たちらしい試合ができたと思います。僕たち三年生は野球部を引退しま



令和元年東日本台風で発生した災害廃棄物を搬出する部員の皆さん

したが、後輩たちには、これまで受け継がれてきたチームカラーに、僕たちの土台となったプレーハードの姿勢を良き伝統として刻み、さらに発展させていってほしいです。

Q いわきの子どもたちに伝えたいことはありますか。

選抜の出場決定と中止、そして交流試合までの期間は、つらい状況の中でも手を抜かずやりきることの大切さや、忍耐強くいることの意味を身をもって感じた機会になりました。物事が思い通りにいかないとき、耐え忍ぶ期間はつらいですが、必ず次につながります。また、一人では困難でも仲間がいると乗り越えられることもあります。周りの人を大切に、そして忍耐の先に道は開けるよ、と伝えたいです。



8月23日に行われた引退試合後に、部員や応援団などの皆さんと撮影した記念写真



絵はがきの種類② (街、建物)

絵はがき作製の発祥・隆盛期となる明治・大正時代における地域の建造物としては、古くは神社や仏閣、新しいものとしては駅舎や郵便局、銀行、学校などが絵はがきの対象となりました。明治から昭和時代中期にかけて、農



平駅前のにぎわいを伝える絵はがき【大正14(1925)年 八巻写真部発行】

明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されていました。絵はがきに残る当時の風景などを通して、いわきの歴史や文化をひもときます。

山漁村にとって、都市は全く異世界として注視されており、都市と農山漁村は厳密に区別されていました。そのため、都市においては商取引や娯楽など、農山漁村から多くの人々が訪れることが期待されました。一方、農山漁村の人々にとっては、都市の営みは日常とは無縁の世界であり、消費する場、憩いの場などを通じて、憧れや魅惑の場ともいえる存在でした。

ここに都市のイメージを如実に紹介してくれる存在として絵はがきがあり、農山漁村の人々からはその存在が欲されていたのです。平や小名浜、植田、湯本、四倉などの街中の写真は、そうした欲求を満たすための格好の絵柄でした。

特に、平には郡役所や裁判所等のいわき地方唯一の施設や、銀行や郵便局、中等学校、専門学校等、いわき地方で初めて登場した施設などが設置されており、他の地域にとっては珍しい存在であったことから、その建物なども絵はがきの対象となりました。

(いわき地域学會 小宅幸一)

こんにちは市長室から ⑤8



令和元年東日本台風 あの日から一年

いわき市長 清水 敏 男

昨年10月に本市を直撃した令和元年東日本台風は暴風を伴う記録的な大雨となり、河川の決壊などで尊い命が失われるとともに、床上浸水や土砂災害、平浄水場の被災に伴う断水など、市内各所に甚大な被害をもたらしました。また、同月25日の大雨がさらなる追い打ちとなり、東日本大震災を除いて本市では過去最悪の災害となりました。

市では、発災直後から人命を最優先に考え、

被災地の一日も早い復旧・復興に努めるとともに、被災された皆さんの生活再建に尽力し、間もなく一年を迎えます。8月31日には、この災害を第三者に検証いただくため設置した「台風第19号における災害対応検証委員会」の最終報告書を私自らが受領いたしました。同報告書には情報伝達・避難所・避難行動のあり方や災害対策本部の対応、自助・共助・公助の役割、新型コロナ対策など多岐にわたる指摘があり、市としては可能な限り迅速に対処し、次なる災害に備えてまいります。

今月12日には市主催の「令和元年東日本台風追悼式」を開催します。改めて犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、この教訓を生かして「災害に強いマチ」を市民の皆さんと一緒に創ってまいります。